

新社長



昨年12月、鉄・ステンレス製車止め・アルミ旗ポールで国内トップシェアのサンポール（広島市中区）の社長に就任した。「企業の

命題は継続だが、社会に認められ

なければ叶わない。車止めが何の役に立つか、常に問題意識を社員全員が持つて業務に臨む集団でありたい」が抱負。

3年前から代替わり

サンポール 山根 令氏

車止め高強度化で社会貢献

を準備してきたため、若さへの不安はない。「業務効率化を目指し、営業活動をかける時間も生み出している。」「業務効率化を目指して、年配の社員も力を発揮できるように徐々にデジタル化を進めていきたい」と語る。効率的な事故は、大きなインパクトを会社に与える余力を使って営業活動も強めたいという。一つの試みとして、今年めた車止めの開発が

に自動運転が普及するほどに高強度な車止めの需要が生まれてくるかもしれない」と見通す。

2022年9月期は売上高が初めて50億円超えを果たし、山根以

久子前社長（現会長）の退任に華を添えた。

販売伸長とコストプッシュが要因。前期は増収減益だったため、今

期は減益幅圧縮を目指す

略歴

山根 令氏（やまね・れい）2009年立命館大理工学部卒、同年システム会社入社。15年サンポールの営業、生産の管理部門を渡り、20年に取締役に就き経営陣入り。翌21年専務取締役製造部長を経て現職。学生時代はテニスサークル所属。麻雀が得意で現場マンと卓を囲むことも。広島市出身。

す。単純な価格転嫁にとどまらず、歩留まり向上や材料の共通化、端材の活用方法を模索する。10年後には、売上高80億円の絵図を描いている。

（小田 琢哉）

業務効率化目指しデジタル化推進